

第6期科学技術基本計画と研究基盤イノベーション

The 6th Science and Technology Basic Plan, and The Research Infrastructure Innovation.

東工大¹, 内閣府 CSTI² °江端 新吾^{1,2}

Tokyo Tech¹, CSTI, Cabinet Office², °Shingo Ebata^{1,2}

E-mail: ebata.s.ac@m.titech.ac.jp

内閣府 CSTI では第6期科学技術基本計画に向けた議論が日々進められている。特に近年ではEBPM (Evidence-based Policy Making, エビデンスに基づく政策立案), そして大学改革を中心としたEBMgt (Evidence-based Management, エビデンスに基づくマネジメント) を元に研究力強化のための様々な施策が打ち出され始めた。本講演では, 基本計画の策定プロセスと重要施策, さらにこれまでに議論されてこなかった研究基盤イノベーション政策についても紹介する。



科学技術基本計画の推移 (出典: 内閣府作成資料を筆者が改定)

参考文献:

1. 科学技術基本計画 (<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/index5.html>)
2. 文部科学省研究力向上改革 2019 (http://www.mext.go.jp/a_menu/other/1416069.htm)
3. 江端新吾ほか「北海道大学における機器共用政策と研究基盤戦略: グローバルファシリティセンター構想」(2016) 研究・イノベーション学会年次学術大会要旨集, 31: 15-18
4. 江端新吾ほか (2018) 「エビデンスに基づく北海道大学の経営戦略と経営マネジメント人材URA」 研究・イノベーション学会第33回年次学術大会要旨集
5. 江端新吾・伊藤裕子「大学の先端研究機器共用施設の研究活動への効果の把握～北大オープンファシリティを事例として～」(2015) NISTEP DISCUSSION PAPER No.113